

自立式砂防えん堤型枠ブロック(ダムウォール)

コンクリート用混和材

擁壁

環境製品

水路

側溝

道路用・他

トップベース工法

住宅関連

- (一財)砂防・地すべり技術センター SABO technical center(STC)建設技術審査証明取得 第1102号
- 福岡県新技術・新工法活用促進制度登録1702011B
- NETIS-KK-050016-A 国土交通省 新技術情報提供システム

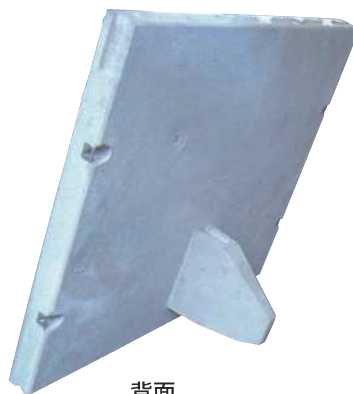


特長

- 自立型プレキャストブロック 垂直用・0分5厘～7分用(5厘刻み)の15種類の砂防堰堤ブロックが全て自立するため、施工中の安定度が高く、作業が行いやすくなっています。
- 各勾配専用設計 ダムの前面背面の勾配が異なる場合(例えば前面2分、背面5分)でも、砂防堰堤ブロック1段分の直高が全て1.5mになる様に設計されていますので、堤体コンクリート打設高も1.5mが確保できます。
- 景観を損なわない 砂防堰堤ブロックの前面に植石・化粧などを施すことにより、自然の景観にマッチしたダムの構築を可能にします。
- 優れた経済性 商品そのものの経済性に加えて、施工が早いいため、経済性に優れています。 ※砂防堰堤ブロックは、全て受注生産になります。

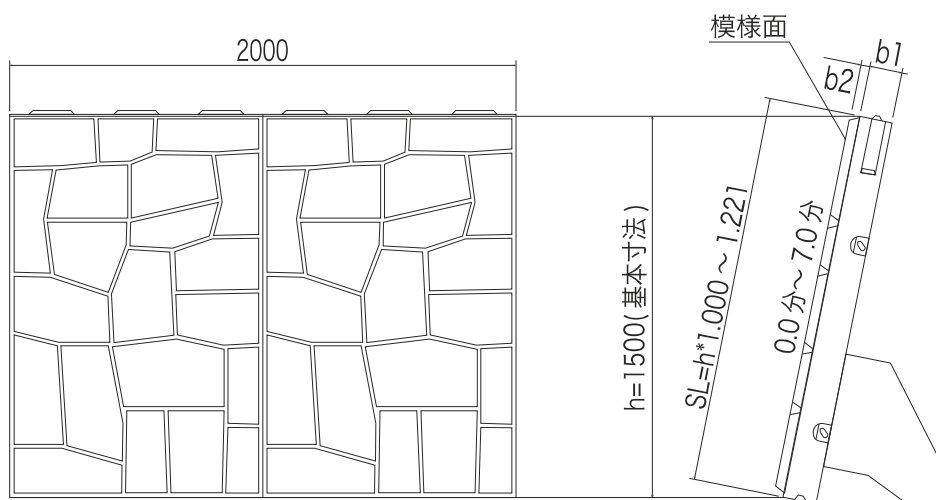


前面



背面

砂防堰堤ブロック



製品寸法表

勾配	寸法	SL(mm)	b1(mm)	b2(mm)		体積(m ³)	重量(kg)	
				フラット	擬石模様		フラット	擬石模様
垂直		1500	130	0	35	0.402	925	1085
0.5分		1502	130	0	35	0.402	925	1085
1.0分		1507	130	0	35	0.404	930	1090
1.5分		1517	130	0	35	0.409	940	1100
2.0分		1530	130	0	35	0.411	945	1110
2.5分		1546	130	0	35	0.415	955	1120
3.0分		1566	130	0	35	0.422	970	1135
3.5分		1589	130	0	35	0.428	985	1155
4.0分		1616	130	0	35	0.435	1000	1170
4.5分		1645	130	0	35	0.441	1015	1190
5.0分		1677	130	0	35	0.450	1035	1210

※表中の体積は、模様面を除いた版厚と脚の体積とする。
 ※5.0分勾配を超える製品についても対応できる場合があります。

数量表

(100m²当り)

材料	形状寸法		全数量	単位	備考
	規格(mm)				
砂防堰堤ブロック	2000×1500		33.33	個	垂直勾配
連結金具	M16		66.67	組	ボルト・ナット ワッシャー×2
固定金具	M16		133.34	組	ボルト・ワッシャー
等辺山形鋼	75×75×6		59.33	kg	L=65 φ20穴
保持筋	Aタイプ	φ16又はD16×1380	143.52	kg	1.56kg/m(D16)
	Bタイプ	φ16又はD16×950	98.79	kg	1.56kg/m(D16)
アンカー筋	φ16×840		88.48	kg	1.58kg/m

※上記の数値は垂直勾配のときのものです。
 その他の勾配については、各地区の営業担当にお尋ね下さい。

自立式砂防えん堤型枠ブロック(ダムウォール)

コンクリート用混和材

擁壁

環境製品

水路

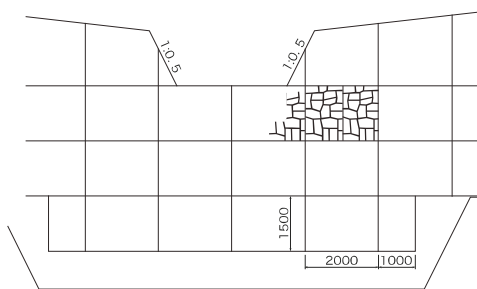
側溝

道路用・他

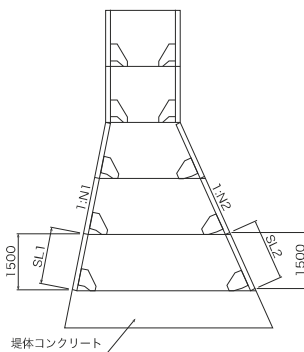
トップベース工法

住宅関連

【展開図】



【断面図】



ダムの前面背面の勾配が異なる場合 (例えば前面2分、背面5分) でも、砂防堰堤ブロック1段分の直高が全て1.5mになる様に設計されていますので、堤体コンクリート打設高も1.5mが確保できます。

施工要領

1. リフト計画の立案
指針等に従いリフト計画を行い、ブロックの割付を決定する。
2. 基準高のチェック (図1参照)
設計計画に従い掘削を開始し、所定の基準高に仕上げる。
3. 堤体コンクリート
リフト計画に従い、一番目のブロックを据付けるためアンカー筋を設置し、堤体コンクリートを打設する。
4. 鉄筋挿入 (図2参照)
コンクリートが硬化する前に、アンカー筋を所定の位置に確実に設置する。
5. グリーンカット (打継モルタル) (図3参照)
ブリーディングによるレタンスを圧力水又は電動ブラシ等で、コンクリートが完全に硬化する前に取り除き、打継モルタルを打設する。
6. ブロックの据付け
ブロックを所定の勾配に据付ける。
7. 各種取付金具の組立て
ブロック背面のインサート孔に山形鋼をボルト・ワッシャーで固定し、この山形鋼とアンカー筋を保持筋に溶接し固定する。
8. 法肩表示の設置
ブロック天端両端にある穴に単管等を挿入し、法肩表示を設置する。
9. コンクリートの打設
指針等に従いコンクリートを打設する。

※4～8の作業を繰り返し、所定の高さまでコンクリートを打上げて終了となるが、『6. ブロックの据付け』の前に法肩表示を撤去し、その穴にコンクリートを充填する。

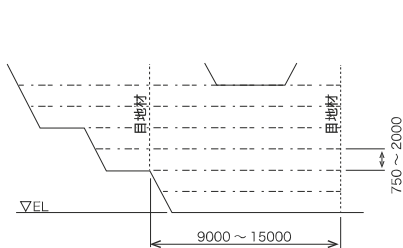


図1. 基準高のチェック

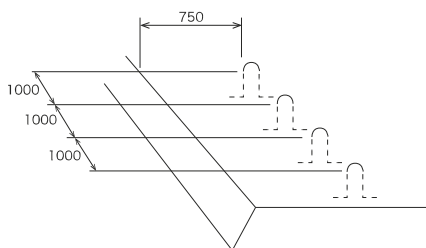


図2. 鉄筋挿入

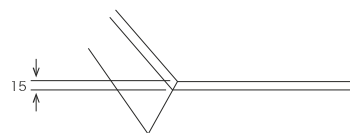
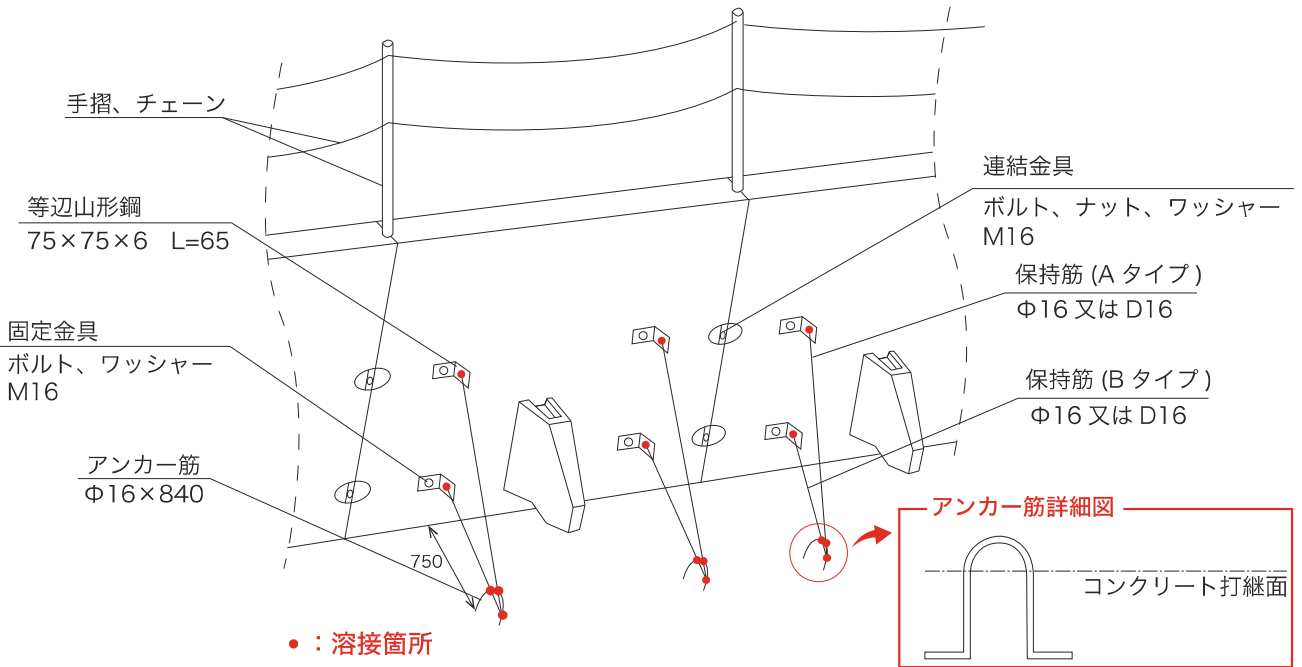


図3. グリーンカット

構造図



連結金具溶接完了

コンクリート用混和材

擁壁

環境製品

水路

側溝

道路用・他

トップベース工法

住宅関連